

広島土砂災害と安倍首相

8月20日未明に広島市で発生した大規模土砂災害により、多数の犠牲者が出た。写真は21日の朝日新聞朝刊1面である。大見出しには39人死亡、7人不明とある。

20日午前8時48分にヘリから広島市安佐南区を撮った写真の説明には、災害現場では山肌に何本も土砂が流れ出した跡ができた、とある。



翌22日の朝刊には「広島 死者・不明90人に」という大見出しとなっており、正直驚いた。情報集まり不明者急増のようだが、それにしても前日から倍増している。被災現場は再び雨が激しくなり危険な状況にあり、捜索が難航し情報収集も困難をきわめていたのであろう。なぜ、こんな大災害が起きたのか。午前4時までの3時間に史上最多の217.5ミリ、平年の8月1ヵ月分を上回る降水量を記録した。ここの地質は風化が進んだ崩れやすい花崗岩(まさ土)からなり、災害リスクが高い地域であった。避難勧告の遅れなどの問題も指摘されている。

災害リスクの高い地域に宅地化が進み、90名の死者・行方不明者を出す大災害となった。記録的な豪雨が頻繁に起こるようになり、土砂災害の危険性が高まっている。東日本大震災のあと、とかく南海トラフ巨大地震や首都直下地震など巨大災害が注目されがちだが、今回のような局地的な土砂災害にもっと目を向けねばならない。防災・減災まちづくりの観点から、徹底した検証が求められる。

それと大災害が進行している最中の安倍首相の行動に大きな疑問を感じる。安倍首相は山梨県富士河口湖のゴルフ場から、午前6時30分に「政府の総力を挙げて、被災者の救命・救助などに全力で取り組む」など関係省庁に指示を出した後、ゴルフを始めたという。本当に危機意識があれば、すぐに官邸に戻っていたはずだ。また被害の全貌も定かでないのに、21日夜には山梨県の別荘に戻った。これも考えられない行動である。

一緒にゴルフをプレーしたのは森喜朗元首相、茂木敏充経産省らであった。読売新聞によれば、森元首相は2001年2月の米原子力潜水艦と実習船「えひめ丸」との衝突事件の際に、ゴルフを続けて辞任に追い込まれた。そのためか安倍首相は1時間でゴルフを切り上げたと報じている。問題なのは、安倍首相がゴルフを始めたことであり、再び別荘に舞い戻ったことである。広島・長崎の被爆者への対応とともに、安倍首相の姿勢が疑われる。

(2014年8月22日)